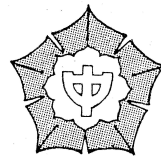


賞



校訓

郷土を愛し

明るく素直で

たくましく

「第5回全国小・中学校リズムダンス ふれあいコンクール」のご報告とお礼



優勝旗を手にし、みんな会心の笑みです。

文責：校長 川内康範

出発前の保護者会でもお話ししましたが、昨年度の大会では出発直前になってインフルエンザのため欠席せざるを得ない生徒が出てしまいました。それでも生徒たちはよく頑張り、第2位というすばらしい成績を残しています。ですから、今回私の思いとしては、全校生徒で参加し、全員元気に帰ることができ、これが一番の目標でした。そしてこの目標は、みごとに達成することができ、大変うれしく思っています。これだけでも十分ですが、今回はさらに、昨年果たせなかった「文部科学大臣賞・優勝」に輝くこともできました。

これまでを私なりに振り返ってみますと……、11月に朝練で踊るのを初めて見たとき、私はびっくりしました。2分間のダンスを終えた生徒たちはみな肩で息をしているのです。素人の私が見ても、今回のリズムダンスはスピードが速く、技術的にもかなり難しいように感じました。「これが1か月後どのようなようになっていくのだろうか。」私にはこの先のイメージができません。しかし、生徒たちは練習計画に沿って、少しずつ練習を重ね、話し合い、確かめ合いながら、ダンスを仕上げていきました。終業式の日には体育館で披露会を開きました。この日は本番さながらの緊張感の中で、すばらしい演技を見せてくれ、私を安心させてくれました。でも考えてみると、当日の会場である赤坂ブリッツは、1年前にたった一度踊ったきりです。ましてや1年生は初めての舞台です。広さも違えば、照明も、音響施設も全然違います。もちろん観客も、会場の雰囲気も……。場所が変わっても大丈夫なのだろうか。そんな不安もよぎります。

さて、12月27日、当日は15時から開会式です。全国から集まった代表が22チーム。その中で22番目、トリが大島中学校でした。集中力・緊張感を切らさないでおくのも大変だったと思います。そしていよいよ学校紹介があり、大島中の出番です。暗転したステージに18名の生徒がスタンバイし、動きがびたりと止まります。そして、規定曲「Go my way」が流れはじめ、これからはもう生徒たちは軽快な音楽に合わせて、体全体で表現するだけです。スポットライトを浴びた生徒の表情からは笑顔があふれ、18名が一体となった動きとそのスピードに観客は自然と引き込まれていきました。踊り終えた後は、今までで一番大きな拍手とどよめきが聞こえてきました。TBSの石井アナウンサーが開口一番に「速い動きですね。」と言いなから出てきたのが、とてもうれしく感じました。「大島中のいいところを見てもらった。」と思いました。そして結果は、「文部科学大臣賞・優勝」です。一昨年の優勝旗を取り返すことができました。生徒たちは、「優勝」を目標に掲げて頑張ってきたはいましたが、一度きりの本番で練習どおりの成果をきちんと発揮できる生徒たちの表現力には本当に驚かされました。ステージで踊る生徒たちも輝いて見えたのですが、引率の先生方から祝福を受ける生徒たちの表情は、達成感、満足感、解放感にあふれた最高の笑顔でした。

今回の経験を通して大島中の18名は、自主性・実行力・忍耐力・チームワーク・リーダーシップなどたくさんを学びました。そして、「小さな集団でも協力し合えば、大きなことを成し遂げることができる。」という自信を深めました。



東京まで行くという経験も貴重だったと思います。飛行機が離陸する瞬間はどこからか「ワーッ」という声が上がっていました。自動販売機で切符を買うときは行列ができ、他のお客さんにちよつと迷惑もかけました。満員電車も経験しました。私自身も、赤坂駅で一足先に切符を買って待って、おこうとしたら、みんなとはぐれてしまい慌てました。順応性が速いのはさすがに若い子どもたちの方です。班別行動の時は話し合いながら立ち寄る店を決め、迷わず上手に移動できていました。子どもたちは、こうやって都会の生活にもどんどん慣れていくのだろうなあと思いました。

生徒たちは、これまでご支援いただいた地域の皆様への感謝の気持ちを忘れることなく、今後の中学校生活をますます充実させるものと確信しています。

私たち職員はさらに子どもたちが飛躍できるよう一丸となって教育活動を推進して参ります。保護者の皆さま、今後ともご支援のほどよろしくお願ひします。



長 4号 新 聞 2018年(平成30年)1月7日 日曜日

全生徒18人 団結し優勝

平戸市の舞島、大崎村にある市立大島中、山内建設校長、18人の全生徒で、ダンスチーム「Sea in 大島」が、1月7日午後、27の道府、東京で開催された「第9回全国小・中学校リズムダンス大会」の中学生組ダンス部門で、優勝に輝いた。文部科学大臣賞に輝いた。

同コンクールは、小中別ながらステップを踏む運動に自由、規定曲の2部門で、的オリジナルダンスなど実施。規定曲部門では課題曲や楽章、1月から約1カ月曲に合わせて、決まった振り間、異色の放課後などを付けとオリジナルの振り付け、活用し強化練習に励み、けとを組合わせたダンス。大会では観客約1千人のを披露。中学の同部門には、前年度優勝、動きや音楽の良全国133チーム、計約800人の応募があり、地をされ、2位に7県差をつか大会やDVD審査を通過し優勝に輝いた。白石した22チーム計400人が、大島中は18人、優勝し、輝いた。栄冠を見せた。昨年同様、優勝した。生徒は1月25日、平戸という年の白石理事長、市役所を訪問し、山内建設市長(1月5日)、全員で白を組むに報告した。(佐藤武郎)

「全国小・中学校リズムダンス大会」の優勝に輝いた大島中の生徒ら。山内建設所

全国小・中リズムダンスコン 大島中(平戸)が文科大臣賞